

AA19960017J1

東大医学部

面接を全面導入

99年にも 人物重視の入試に

東大医学部（理科Ⅲ類）は二十六日、入学試験に面接選考を全面的に導入する

方針を明らかにした。大学当局との協議を経て、早ければ一九九九年の入学試験

から導入される見込み。医師にふさわしい人間性を見抜くため、現行の学力筆記

試験だけの選考方法を見直すことにした。

理科Ⅲ類の現行の入試は前期試験で八十人、後期試験で十人を選抜している。

後期試験では、すでに九〇年度から面接を実施しており、これを、前期にも広げることにした。

この方針は今日二十日の医学部教授会で決定した。

この日、記者会見した矢崎義雄・医学部長は「偏差値偏重に過ぎる、との批判が、とりわけ理科Ⅲ類の入試に集中している現状を考慮した」と述べた。

入試の最難関とされる東大医学部としては、面接の導入で「人物重視」を打ち出すねらいもある。オウム事件でOBの関与が明らかになったことも見直しの背景にあると見られる。

東大の入試は、理科Ⅲ類後期試験を除き、面接は実施されていない。